

障がい児・者と家族への支援 ～豊田市における支援システム～



高橋 脩
豊田市福祉事業団

今日のお話

1. 障がいのある人と家族への地域福祉の現在
2. 地域における障がい児・者と家族への支援
3. 支えるためのシステム（豊田市を例に）

注：障害は、障がいと表記

1. 障がいのある人と家族への 地域福祉の現在

- 1970年代：ノーマライゼーション思想
個人の尊厳・自己決定、4つのリズム、住まい、日中活動、
ノーマルな性的関係、所得
- 2011年：障がい者基本法改正
社会モデル、共生、合理的配慮、差別解消
インクルージョン：施設福祉から地域福祉へ
- 2024年：障がい児・者福祉とも多くの地域支援サービスが
整備、インクルーシブ保育、少子化等により支援の質、一貫性、
継続性、連携性などシステム運営上の問題が発生
「第7期障がい福祉計画」、「第3期障がい児福祉計画」
→ 支援の再確認、仕組みの在り方の再検討、障がい児支援の
人材育成(こども家庭庁)

2. 地域における障がい児者と家族への支援 支援を考える

- 主人公は障がいのある人と家族（本人主体）
- 支援者は、指導者ではなく支援者、これを徹底・共有・実践
- する前に知る、知って合わせる（本人、家族に）。
- 家族の育ち合い支援
- 本人：特性（障がい）、発達、性質、願い、環境
- お母さん
- お父さん
- 兄弟姉妹
- 祖父母
- 出会いを大切に丁寧な仕事を

本人の機能特性を知り、合わせる

- 駒回り：前庭刺激遊び、2歳から3歳がピーク
- 感覚過敏（聴覚、触覚、味覚など）：イヤーマフなど
- 視覚優位：絵や写真、文字の活用
- 予測が苦手：予告、スケジュール化
- 空気が読みにくい：暗黙のルールは伝える。
- 集中が苦手：課題を減らす、時間は短く、シングルタスク..
- 字が読めない、書けない：振り仮名、タブレット
- 手がなく、足が手替わり：席は前、タブレットの使用
- 口から食べられない：胃ろう
- 四肢が動かせない：ロボットを使って就労
- 外に出たくない：在宅アート就労

発達を知り、合わせる

- オウム返し：チョウダイは↑
単純オウム返し、返事、チョウダイ↓
- 愛着：混沌 → 道具 → 快適 → 依存 → 自立
- 発音：タ行は3歳、サ行、ラ行は5～6歳
- 文字：一般には、4歳、語彙が2千語、尻取りができるなど
- 身辺自立：コップ → スプーン(上手持ち → 下手持ち → 3点持ち) → 箸
- ダウン症児の言葉：理解より発語が遅れる、聞き取りやすくなるのは小学校入学前、吃音は入学後に起こる。
- 対人遊び：ワザと人の嫌がることをして喜ぶ。
- 比較は、他児としないで、過去とする。

性質と希望、環境を知り合わせる

- 性質

自信：そっと、褒める

慎重：褒めない、慎重に褒める、段階的に参加

自閉症：積極、受け身、孤立 → 合わせた対応

- 希望

進路：本人中心（中学校、高校、大学、就職）

情報提供、見学、実習、決定

- 生活環境

場所、家の広さ、階、近所など
困ったら、現場に立って考える。



あいちアールブリュット 山本和矢

お母さんを知り、合わせる

- お母さん
 - 日々の子育てに追われ疲れる、焦る、落ち込む、子どもの成長が見えなくなる。
 - 共感する。
 - 見通しを伝える。
 - 過去と比較する。
 - 仲間と出会う：支え合う、自己有用感
 - お父さんの役割：聴く、成長を伝える、子どもと関わる
 - 試練は、共に行動し決める(就学、重要な診察など)。

お父さんを知り、合わせる

- お父さん
 - 遠い先のことを考え、母子の今を知らない、見えない。
 - 現実を知る：役割をつくる（入浴、帰宅時の遊びなど）
 - 試練の共有：診断（初診、合併症）、進路、母子葛藤など
 - 有益な福祉・教育・労働情報の提供：安心
 - 父の過去との出会いと成長
 - 母の役割：育児の中で父の役割をつくる（子どもを知り、関係を深める）

兄弟姉妹を知り、合わせる

- 兄弟姉妹
 - 障がいのある子への理解、ヤングケアラー、生活の混乱、我慢と淋しさ、兄姉と弟妹の違い
 - 入学への意見
 - 成人後：兄弟姉妹への影響（結婚、親亡き後など）
- 親の役割

喧嘩には介入しない（ルール違反以外）、学校でのことは兄弟姉妹には頼まない、親子2人だけの親密で大切な時間（物語）をつくる、障がいのある子について話すなど

祖父母を知り、合わせる

- 祖父母
- 祖父母は隠れたキーパーソン
 - 役割：3つの支え（心、子育て、お金；ことに母方祖母）
- 祖父母の悩み：障がいのある孫、他の孫、障がいのある孫を育てる若い子ども夫婦、孫の世話をする負担、短い人生
- 祖父母宅との距離、仕事、両親との関係、孫との関係
- 祖父母の障がい観：古く悲観的、時に差別的→正しい理解
- 親に代わって孫を育てる祖父母：共感、負担の軽減
- 障がい児者支援は、家族の育ち合い支援

3. 支えるためのシステム

障がい児者支援の原則

- 目的：生涯を通じて健やかに成長し、安心して自己実現ができる地域づくり
- システム(仕組み)整備の要点
総合性、一貫性、継続性、地域性、連携性(相互補完的)
- 基本的要素(障がい児)
 - 直接支援機能：発見、子育て、専門療育、インクルーシブ保育、特別支援教育、余暇、在宅支援、医療、相談
 - 間接支援機能：システム運営(PDCAサイクル)、地域支援研修・人材育成、調査・政策提言

豊田市の概要

- 豊田市(愛知県西三河北部)、中核市
- 面積: 愛知県の約20%(大阪府の半分)
- 人口(2025年1月1日現在)
総人口: 414,502人
年少人口: 50,623人(12.2%)
- 出生児数: 2,544人(2023年)
- 産業: 製造業(自動車関連)、農業(果樹等)



豊田市の発達支援システムの歩み(1)

- 1991年：豊田市早期療育システム構想
- 1996年：豊田市こども発達センター開設
(1)スク兒支援、療育、診断、相談、地域支援)
地区医師会・歯科医師会と役割分担確認
豊田市心身障がい児早期療育推進委員会発足
- 2000年：乳児期支援開始(新生児集中治療室退院児支援)
- 2003年：豊田市立保育所・幼稚園移管計画
- 2007年：豊田市特別支援教育推進委員会発足

豊田市の発達支援システムの歩み(2)

- 2012年：民間障がい児通所支援事業所支援開始
(研修会、実習、訪問支援、連絡会設置)
医療専門職の実態と支援ニーズ調査(2024年)
- 2015年：市内4精神科病院への転医開始(18歳以上)
4病院への移行評価調査(2023年)
- 2017年：豊田市強度行動障がい支援検討会発足(2017年)
豊田市で強度行動支援者養成研修(2021年)
強度行動障がい者支援センター設置予定(2026年)
- 2022年：医療的ケア児者地域支援会議発足
事業団の重症児通所施設で第3号研修開始(2013年)
- 2024年：胎児期からの支援調査に基づき支援体制整備
- 2024年：少子化に対応した児童発達支援センターの見直し

豊田市の発達支援システムと連携(1)

- 発見(乳幼児健診、医療機関、保育施設、学校等)
- リスク児の子育て支援(豊田市こども発達センター：800人)
- 専門療育(発達センター：肢体、難聴、知的発達症・自閉症)
ー加えて、児童発達支援事業所：35事業所、多様、並行通園
- 相談・地域支援(保育所等、児発・放ディ：発達センター、500回)
医療的ケア児研修(発達センター、毎年2名；2021年)
- インクルーシブ保育(保育所、幼稚園：計105園)
- 診断・医学的ハビリテーション(0～18歳：発達センター)
- 健康管理等(地域小児科医院)、入院医療(2基幹病院)
- 余暇支援(放課後等ディサービス：54事業所)
- 18歳以降の精神科診療(市内4精神科病院)

豊田市の発達支援システムと連携(2)

- 特別支援教育(小中学校103校、市立豊田特別支援学校)

- 教育相談・学校支援(豊田市青少年相談センター)

特別支援教育アドバイザーチーム(訪問1000回)、ブロック体制

特別支援学校教諭免許の免許法認定講習(2025年)

- 余暇支援等(児童発達支援35か所、放課後等ディ54か所)

- 運営・連携・人材育成・地域支援

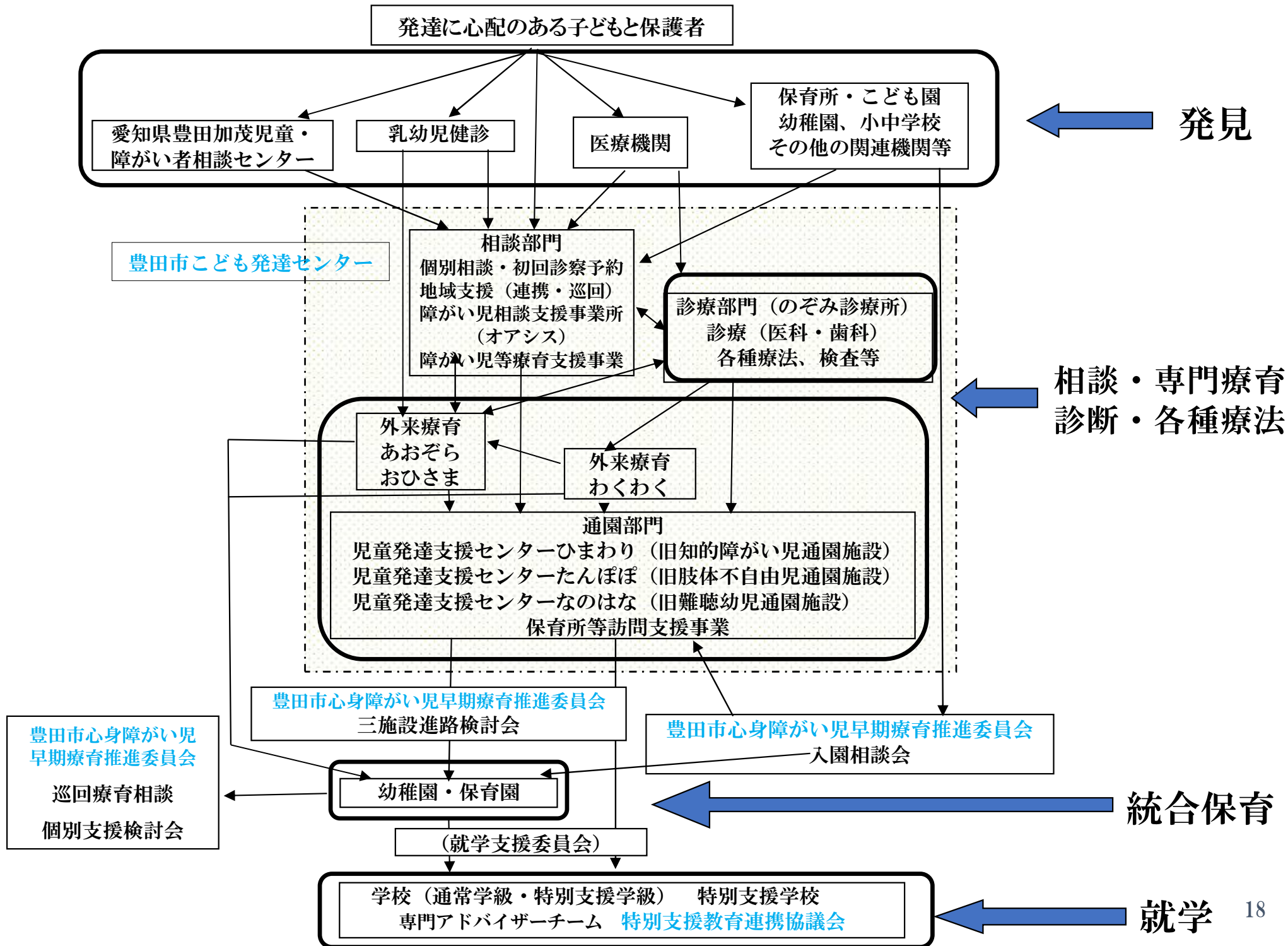
- 乳幼児期

豊田市心身障がい児早期療育推進委員会: 発達センター

- 学齢期

豊田市特別支援教育連携協議会: 青少年相談センター

豊田市の発達支援システム



ご清聴、ありがとうございました。

～未来は、現場で発見して
もらうのを待っています～

障がい児支援における 保育園・幼稚園の役割

- インクルーシブ保育機関
- 障がいの発見機関
ことに、知的遅れのない発達障がいのある子

発達障がいのある子の発見と対応

- 前提：先生方の、各障がいの乳幼児期における特徴的行動についての理解・情報共有と役割分担ができていること
↓
- 障がいへの気づき
- 保護者との問題共有：タイミング、心を開いて話せる環境
- 専門機関への紹介：相談機関等 → 医療機関
- 診断後の親支援：ショック、否認、混乱、努力・・・(前進後退)
- 医療機関、小学校、各種通所支援事業所等との連携による子ども・保護者支援(保護者の同意の下で)